

2017年(平成29年)6月29日(木)

静岡

袋井出身・鳥居信平



鳥居信平が築いた水路を視察するグラウンドワーク三島の一行=台湾・屏東県来義郷で

台湾に地下ダムを築造

台湾では1945年(昭和20年)から1946年(昭和21年)まで日本統治下で造られた土木建造物が各地で今も使われている。袋井市上山梨(当時山梨村)出身の水利技師、鳥居信平(1883~1946年)が築造した台湾南部・屏東県の地下ダムもその一つ。現地では自然環境に配慮した水路改修が検討されており、三島市のNPO法人「グラウンドワーク三島(GW三島)」の一行が28日に現地を訪れた。

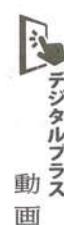
鳥居は東京大で学んだ後、1914年、国策会社として設立された「台湾製糖」技師として現地を訪れた。

GW三島 先人の遺業 たどる

GW三島の渡辺豊博専務理事は「無理にダムや堰を造らず、画期的な地下ダムを造り、きれいな水を安定的に供給させ、台湾の生活を支えた」と評価する。

して台湾に赴任。屏東県来義郷の河川、林辺溪の川床地下に伏流水をせき止める長さ約160m、高さ約3mの地下ダムと514mの地下水路、支線を含め総延長約57kmの水路をかけ築いた。1日7万m³の水を供給し、荒れ地約3000haがサトウキビ畑に変わった。

GW三島の渡辺豊博専務理事は「無理にダムや堰を造らず、画期的な地下ダムを造り、きれいな水を安定的に供給させ、台湾の生活を支えた」と評価する。都市部のコンクリートとなっている水路の改修について、「水がきれいで、三島の源兵衛川のようになれば」と期待した。



【石川宏】